



2月末日、突然告げられた休校。子ども達は「友達に会えないのは寂しいけど、宿題が無い長期休みなんて初めて！好きなことしよ♪」と前向き。「長い春休みもたまにはいいか」なんて、私も気楽にのんびり過ごしていた。しかし、世の中はどんどん深刻な状況に。そしてとうとう我が家にも、コロナ禍の波が押し寄せてきた。休校延長、夫は自宅勤務に。母は体調が優れず、部屋に籠りコロナの影に怯えるように。これはまずい、なんとかせねば。

こんな風にして始まった我が家のコロナ禍生活。“家族全員、健康で楽しく毎日を過ごす”をテーマに、知恵を寄せ合い工夫して過ごした日々。少しずつ日常に戻りつつある今、ちょっと懐かしく思いながらコロナ禍生活を振り返る。

◆家族で話し合う◆

家族会議を開き、これからどんな風に生活を送っていけば良いか提案。私が具体的に示し、家族もそれぞれアイデアを出してくれた。うまくいかなかった場合はまた話し合い、常に新しいやり方を模索した。

◆健康でいるために◆

家族全員の名前を入れた検温表を見えるところに貼り、毎朝体温を記入。記入が無い場合、気付いた人が声を掛けることで検温忘れ無し。自分だけでなく家族がお互いの体調も意識できた。朝はみんなでラジオ体操。友達家族とオンライン上で一緒に、♪1、2、3、4。楽しく継続できた。午前と午後に1回ずつ、庭でボール遊び、リビングで卓球など、体を動かす遊びをした。運動不足解消が目的だったが、家族で遊ぶことは楽しく、心の健康にも役立ったように思う。食事は家族揃って三食きちんと。仕事に必死で部屋から出てこない夫には、みんなですつこく「ご飯だよー！」と声掛けをした。

◆学校再開に備えて◆

平日はスケジュール表に沿って生活。朝礼・終礼を設け、家族が順番で司会を担当。土日は時間を決めずにのんびり。コロナ禍以前、学校に通っていた時と同じ生活リズムをキープした。学習は時間割を作って進めることを提案（とにかく課題が多かった！）。中1の娘は自

分で時間割を作成し、計画的に課題を終えた。小5の息子は苦戦。今は先生役も私の仕事！と割り切って、息子と二人三脚で課題に取り組んだ。こつがわかるとすいすい捗り、疑問に思ったことを調べるまでに。学びが深まった。

#### ◆工夫と楽しみ◆

先生役と家事の掛け持ちで、あっぷあっぷになった私。家事を書き出し、家族で分担することを提案。みんなでやるとあら不思議。あつという間に終わるじゃない！余裕ができて、食事の準備やおやつ作りを子どもと楽しめるまでに。元々料理が得意な娘はレパートリーが増え、昼食を担当してくれる日もあった。息子にも卵焼きという得意料理ができ、暫くの間、毎朝卵焼きが食卓に。毎日のおやつは、スナック菓子から手作りおやつに変身！

新しい生活が軌道に乗ると、子ども達の自由時間が増えた。息子が「遊ぼー」と、ボードゲームを出してきたことをきっかけに、トランプ、花札、オセロ、将棋など、1日1回、家族でボードゲームタイムが定着した。プレイ回数No.1はモノポリー。双六の要領で盤上を周回しながら他プレイヤーと不動産を取引し、自らの資産を増やしていく、というゲーム。これに息子が熱中！毎日の朝礼で「今日は〇時からモノポリーをします」と宣言するほど。年頃の娘はうんざり、な感じを出しながらも付き合ってくれた。「ルールが難しいから私は…」と遠慮していた母には、銀行係を頼んだ。これがなかなかハマり役。母も楽しかったとみえ、次からは誰よりも早く準備に取り掛かるように。

ゴールデンウィークにオンライン飲み会を企画した。毎年この時期に会っていた人達のが気になっていたのも、今できる形で繋がりたいと思った。やってみるとなかなか楽しかったのだが、デジタルを通してのやり取りに、もどかしさや味気なさも感じた。子ども達が「早く人と会って話したい。友達と一緒に遊びたい」と言った。私も全く同じ気持ちだったしホッとした。人と会うのは画面を通してで十分、でなくて良かった。

#### ◆本のこと◆

生活スケジュールを立てる時、学校での時間割にヒントを得て、朝読書の時間を組み込んだ。最近子ども達が本から遠ざかっているように感じていたし、私も読む時間が取れていなかったのも良い機会だと思って。学校の課題に取り組む前の20分間、みんなが同じ場所でそれぞれ違う本を読む。数年前までは、毎晩みんなが同じ場所で同じ絵本を覗き込んでいたのに。ある日娘が、「お母さんはこの本のどの話が好き？」と聞いてきた。私が読んだことのない短編集だったので、読んで娘に感想を伝えた。すると次の日、「僕はこれだな」と息子が話し始めた。子どもの心に落とした本の種が、芽を出しぐんぐん育っていることを感じ、とても幸せな気持ちになった。

息子がコロナ禍中に一気に読みした本がある。「これは今まで読んだ本の中で1番面白くて、1番好き！」と言うほどのお気に入り。私も読んでみると、こんな一節が。

『信じること。あらしや、大きな波がきたら、なんとかがんばってやりすごすこと。

そして、夜があけたら、またでていくこと。もっと遠くへ』  
黒猫サンゴロウ旅のつづき1「ケンとミリ」竹下文子：作 鈴木まもる：絵  
(偕成社)より

私は胸が熱くなった。まさしく今、私達が置かれている状況にぴったりの言葉ではないか。大丈夫、私達家族はもっと遠くへ行ける。そして、同じようにコロナ禍を耐えて乗り切った人々も、夜が明けた時、遠くへ行けると信じている。